



海上神幸「みあれ祭」

秋



11月祭事暦

- 1日 月次祭  
午前10時～ 高宮祭・第二宮・第三宮祭  
宗像護国神社月命日祭  
午前11時～ 総社祭  
併教育勸諭漢発百二十周年記念祭  
浦安舞奉奏
- 3日 明治祭  
午前10時～
- 15日 月次祭 併 七五三祭  
午前10時 総社祭  
引き続き 高宮・第二宮・第三宮祭
- 23日 新嘗祭  
午前11時～ 豊栄舞奉奏

季大祭齋行

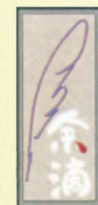
三日間で約21万人が参拝

金・土・日曜日と曜日に恵まれた本年の秋季大祭は、中日の二日・三日に一時雨に見舞われたものの、一日のみあれ祭は秋晴れの中滞り無く斎行され、夕刻からを中心に三日間で約二十一人万人の参拝者が訪れ、田島放生会を楽しめました。

十月一日

主墓地方風俗舞

午前八時三〇分の中津宮出御祭はよく晴れ、先の神迎え神事にて中津宮本殿に奉安されたいた沖津宮御神璽と中津宮御神璽それぞれが輦台(神輿)に無事奉安され、大島小学校鼓笛隊の先導のもと大島港まで陸上神幸が行われた。



現在政府では、春や秋の連休を地域毎に分散化させている。その構想は、旅行コストの低減や観光産業の向上など様々な効果もたらされるとして、観光立国推進本部を中心に実施へ向けた調整・検討が行われているという▼そうした中、経済産業省と観光庁が今年六月下旬～七月中旬にかけて国民を対象に行った意識調査においては、約68%の国民が休暇分散化の実施にメリットは特にないと回答、また教育界や労働界からも、実際の運用面における弊害への懸念が多くだされ、全体として政府には慎重な議論が求められる結果となった▼本来この国民の休日とは「国民こそ祝って祝い感謝し又は記念する日」であると祝日法には定められており、明治以来祝祭日の形を受け継ぎ、祭日の由来するものや、国家・皇室にちなむ我が国建国以来の伝統・文化の軌跡を国民一同祝す意義深い祭日である▼しかしながら、戦後の祝日改正法により祝日の名称を替え、日曜日と併せ連休にするなど時代と共に祝日の在り方が変わってきている▼本来の祝日の意義について広く国民一人一人が理解し、建国以来の我が国の良き伝統・文化を再認識し、それを後世に受け継ぎ伝えていかなければなるまい。

(中)

神具・装束・授与品

**井筒**

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る  
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401  
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉野院観音堂町23  
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市福元4丁目20 電話(0940)32-2567



の神輿が御座船に載せ終わると、午前九時三〇分先導船を先頭に御座船、供奉船と順を追って出港、港の外には波切御幣、紅白吹流し、大漁旗で飾られた約一五〇隻の漁船が待機しており御座船に続いた。一方その頃、辺津宮では午前九時に辺津宮出御祭が斎行され、辺津宮の御神璽が神湊港に向かわれた。



辺津宮御座船が待つ神湊へ向かった大船団は、年に一度の宗像三女神再会の無事を祈る人々の思いの賜物なのか、凧の玄界灘を壮麗に進んだ。神湊港への入港間近、海上で一年振りにお揃いになられた女神達三隻の御座船は予定地点で停船。供奉してきた船々は、「国家鎮護」の大幟を確認し順次御座船三隻を一周し宗像七浦各母港へ帰っていった。それを見送り御座船は神湊港に着御。船から降ろされた三基の鞆台は、神湊の海を見渡す高



大島小学校鼓笛隊に先導され、中津宮へ出御

台にある頓宮まで御神幸し頓宮祭が斎行された。祭典後、御座船奉仕船長に感謝状・記念品が贈呈された。その後、三宮の御神璽を載せた三台の御座車は白バイとパ

トカーに先導され、辺津宮まで陸上神幸。定刻通り、本殿へ入御され秋季大祭一日祭(入御祭)が斎行された。高向宮司の祝詞奏上に続いて、保存会奉納の主基地方風俗舞が厳かに奉奏された。祭典後には先月



神湊に到着した三宮の鞆台

詳細の海洋神事奉賛会前会長の村田繁美氏に対し、永年功勞の感謝状が贈呈され、みあれ祭に始まる一日目を無事に終えた。

十月二日

流鏝馬神事、翁舞

二日は曇天の中、午前八時から神門前の馬場道で流鏝馬神事の奉納があり、馬上の射手が地上七ツの的に向け、次々と矢を射ると参拝者から盛んな拍手が起こっていた。

午前十一時からの二日祭では、福岡市の喜多流・梅津忠弘師同門下の奉仕により、能管や鼓の鳴り物に合わせ能楽「翁舞」が神前に奉納され、神



総社・辺津宮に到着する三宮の御神璽

妙なるこの舞に多くの参拝者は足を止め見入っていた。尚、氏子奉幣使は田島地区地元総代の中村廣中氏に御奉仕を頂いた。雨は祭典後も時折降り続けたが、日が暮れる頃には止み土曜日ということもあり、家族連れを中心に賑わいを見せた。

十月三日

浦安舞

三日は朝から生憎の雨の中、午前十一時から三日祭併せ高宮祭が斎行された。

地元玄海中学の女子生徒四名による浦安舞が奉納され、十二単を身に纏った舞姫の姿



初めて本館で斎行された、高宮神奈備祭「悠久舞」



年に一度奉納される翁舞



流籠馬神事



宮司より感謝状を受けられる、村田前海洋神事奉賛会長



玉串を捧げる谷井市長、各国領事達

は、詰めかけた多くの参拝者を魅了した。  
三日祭終了後には雨の為、宗像護国神社境内の地面状況が思わしくなく、辺津宮社殿より遙拝の形で護国神社秋季大祭、また現地にて第二宮祭・第三宮祭が斎行された。  
午後二時からは拝殿で南坊流理事二代洗心庵・瀧口宗芳氏以下同社中による献茶祭が斎行され、今回は青木宗美氏が見事な御点前を披露された。

前日からの雨の影響により、秋季大祭を締め括る高宮神奈備祭は、今回初めて辺津宮社殿より高宮を遙拝する形で斎行された。  
時刻、高向宮司以下神職、太宰府天満宮神職・巫女、氏子青年会・小林栄二会長以下会員二十五名の奉仕で斎行された。  
浄間の祭場で「悠久舞」が奉奏される。一同感動の様子であった。この高宮神奈備祭で三日間に亘る秋季大祭は無事に締め括られた。  
ここに秋季大祭に御奉仕頂いた皆様方、御参拝頂きました方々に厚く御礼を申し上げます。

各奉仕者は下記の通り(敬称略)

- ◆大祭諸準備(総代奉仕)
  - 田島地元総代・協力会
  - ◆陸上神幸・供奉
    - 神湊地区氏子会評議員・総代
  - ◆大祭受付
    - 宗像大社氏子会
    - ◆沖津宮御座船
      - 鐘崎・第六蛭子丸(船頭 入江 宏)
      - ◆沖津宮先導船
        - 神湊・第八健栄丸(船頭 三苦豪冬)
        - ◆中津宮御座船
          - 大島・第六宮地丸(船頭 宮本俊久)
          - ◆中津宮先導船
            - 津屋崎・大栄丸(船頭 永島 栄)
            - ◆辺津宮御座船
              - 神湊・健栄丸(船頭 三苦健二)
              - ◆花火船
                - 大島・祐宝丸(船頭 船越寛人)
                - ◆報道船
                  - 大島・みたけ(船頭 遠藤英樹)
                  - 他 宗像七浦始め周辺の各奉仕船、  
沖・中両宮奉賛会、同翼賛会、  
同敬神婦人部の皆様
    - ◆陸上神幸奉仕車
      - 御座車
        - 西九大運輸倉庫(株)
        - (株)新出光・宗像地区タクシー協会
      - 先導車
        - 宗像観光協会・宗像地区交通安全協会
        - 宗像市消防団第十一分団
        - 供奉車
          - 宗像市消防団第十二分団
          - 玄海ホテル旅館組合
      - ◆主基地方風俗舞奉仕者
        - 〔舞方〕 清水陽介、中野久志、  
吉田光利、松井徳一郎
        - 〔歌方〕 石津典秀、永嶋卓也、  
中野 修、岩佐光二
      - ◆氏子奉幣使
        - 中村廣中(宗像市田島地区)
      - ◆浦安舞奉仕者
        - 宗像市立玄海中学校二年生
        - 北原あかり、高向紘子、  
谷口姫奈、永島晴奈

# 第40回 西日本菊花大会開幕



古木添え木・洋菊・千輪咲き・一文字作り・菊人形と様々で毎年観に来られる方も飽きさせません。

期間中は菊苗や切花などの販売、宗像観光協会の特産品や軽食の販売も行っております。何かご不明な点がございましたら、緑のジャンパーを着た菊花会会員が巡視していますのでお気軽にお声掛け下さい。

尚、今年は**十一月一〜二十**二日、例年より会期が一日短くなっておりますので気を付けてご参拝下さい。

第四十回西日本菊花大会(宗像大社菊花会、宗像観光協会共催)が、本年も当大社境内で開催されており、神郡の秋を彩っております。質・量ともに全国屈指の菊花展で、九州各県と山口県の菊作り愛好家の方々が丹精込めて育てた菊、約三千鉢が出品されております。



種類も豊富で、大輪・盆栽・懸崖・福助・ダルマ作り・

## 沖ノ島に 生きものたち Vol.4

### 沖ノ島の希少鳥類と外来ネズミ

九州環境管理協会 北九州市立自然史・歴史博物館 研究員 岡部海都 学芸員 武石全慈

六月二〜五日に行われた沖ノ島の希少野生生物調査では鳥類班は総勢五名で参加しました。鳥類は他の分類群に比べ沖ノ島での調査機会が多いのですが、これまでの調査時期の多くはゴールデンウィーク前後や七〜八月でした。今回は鳥類の繁殖期前半となる

六月上旬でしたので、当初、沖ノ島の繁殖鳥類に関する新見が見られるものと期待しました。 今回の調査で確認された鳥類は十二目二十八科六十種でした。沖ノ島で繁殖する鳥類は十〜十五種とみられているので、確認種の七割以上は渡り途中のものとなります。通常六月に入ると渡りはほぼ終息するので、今年

は遅れていたらし、多くの渡り鳥が観察できました。そのため繁殖しているのか、渡り途中なのか判断できない種が多くありました。特にヒヨドリ、メジロ、ウグイス、カワラヒワなど本土での普通種について、沖ノ島での繁殖状況が確認

できなかったのは残念でした。確認された渡り鳥の中には本土では滅多に見られない種が多く含まれていました。エゾセンニュウ、シマセンニュウ、ヤイロチヨウの三種は沖ノ島では初記録と思われるかもしれません。エゾセンニュウとシマセンニュウはいずれも日本では北海道でのみ繁殖する種で、センニュウ(潜入)の名が示す通り藪の中に潜んでいるためなかなか姿を見ることができません。今回は、かすみ網を用いた標識調査で確認できました。



ヤイロチヨウ (2010年6月4日、一ノ岳南西斜面)

ヤイロチヨウはその名のとおり緑、青、黄色、赤とカラフルな配色の小鳥で、「ホヘン、ホヘン」と特徴的な大きな声でさえざります。黄金谷への分岐付近で一ノ岳西側付近から声がするのを確認し、その後撮影できました。ヤイロ



エゾセンニュウ (2010年6月3日、黄金谷入口付近)

チヨウの生息地は山地の良く茂った広葉樹林で、日本では本州、四国、九州に夏鳥として渡来します。生息数は少なく、環境省、福岡県ともレッドリストでは絶滅危惧ⅠB類に選定されています。福岡県でも英彦山や脊振山系など限られた場所で見られませんが、九州北部では五月中旬頃には繁殖地に飛来するため、今回見られたヤイロチヨウは、よ



オオササギ幼鳥 (2010年6月3日、一ノ岳)

り北方で繁殖するものと思われま



捕獲されたドブネズミ

たのは、日本ではヤイロチヨウの島嶼での繁殖事例がないからですが、沖ノ島の原生林はヤイロチヨウの生息環境として適しているように思われます。もしかしたら相手が見つかれば繁殖しようと思っ

念物のカンムリウミスズメ、夏にはヒメクロウミツバメが繁殖します。どちらも絶滅の恐れのある海鳥で、一九八七年には侵入したドブネズミが両種の成鳥を食べて壊滅的な被害を与えました(本誌第五七五・五七七号参照)。その後

野鳥に被害を与えるドブネズミやクマネズミの駆除は、海外ではヘリコプターからの殺鼠剤撒布で大きな成果を収めています。沖ノ島でもカンムリウミスズメなどの海鳥保護のためにネズミ類の駆除が望まれます。



マミジロタヒバリ



カササギ



ハチクマ

第三十七回

秋季奉納盆栽展のお知らせ

日本一の「もりいばら」も展示

第三十七回秋季奉納盆栽展が、宗像大社奉納盆栽会(石松重敏会長)により、十一月十二日(金)～十五日(月)の四日間に亘り、本殿西側の境内で開催されます。

この盆栽展は春と秋の年二回開催され、神郡宗像の盆栽愛好家が、日本の伝統と格調高き美を遺憾なく表現出来る盆栽の普及、技術の研鑽に励

むことを目的に今日に至っております。

今回は特別展示として同会石松重敏会長より、昨年十二月の第十九回日本盆栽青樹展で内閣総理大臣賞を受賞された「もりいばら」を展示頂きました。国内で盆栽の内閣総理大臣賞は二点のみで、日本盆栽界では日本一の「もりいばら」と言われている貴重な作品で



第19回 日本盆栽青樹展 内閣総理大臣賞を受賞された石松会長の「もりいばら」

第37回 秋季奉納盆栽展のご案内

- 会期 11月12日(金)～15日(月)
- 時間 8:30～17:00
- 会場 宗像大社 本殿横
- 拝観料 無 料



境内に展示される盆栽の枝ぶり、葉姿、幹の肌、根及び鉢の総称、その姿全体を鑑賞いただき、日本の伝統美を肌で感じて頂ければと存じます。

河東中学生四名

職場体験学習

九月十三～十七日にかけての五日間、中学生職場体験

長興玲花さんの四名。

学習が宗像市内各所で実施され、当大社でも河東中学校より申し出があり、巫女職として四名の体験学習を受け入れた。

当大社で職場

体験をされたのは、河東中学校二年生の本間亜季さん、野里碧海さん、下川遥花さん、



「浦安貝」装束を身につけ笑顔の中学生等



拝礼作法を学ぶ様子

対、拝礼作法、境内清掃、神楽舞の見学、宗像大社についての講話、神宝館

見学等郷土の伝統文化を学んだ。十五日の月次祭では作法通りに玉串拝礼を行い、巫女の神楽を見学した。中学生等は慣れない環境に戸

惑いながらも、好奇心旺盛に取り組み、白衣・緋袴の着付けにも慣れ、笑顔で参拝者の方に挨拶したりと意欲的に取り組んでいた。この体験学習は「生きる力を身につけた子ども」を育成するという目的で、毎年宗像市内各事業所にて行われている。四名の皆様は今後益々の御活躍を祈念申し上げます。

(続)

# 洪の寄物

251

いしいただし



前号(250)の堺氏写真下に、小さなビラを載せていたがこのビラについて書こうと思う。

戦争末期には、日本国内で米軍機から降伏を呼びかけるビラが撒かれ、私も拾って家族と共に警察に届けたことがある。

掲載したビラは、先日亡くなられた福岡市・中西弘さんから頂いたものである。コピーだがビラの端に「太平洋戦争中にピンが漂着、ニュージランド人が見つけ、中の文



降伏を勧告するビラを撒く

章が分からず、今日まで保存されていた井手純子様が入手提供いただきました」とある。ビラは墨書である。

## 日本軍將兵諸君

「諸君が孤軍奮闘よく困に堪へ草根木皮を食とし、しかも敢てゆづらざるもの実に増援の来着を心まち待つて居らるからであらう。

アイタペ、ホーランチア、サンサポルへの敵が上陸、なほ全く一縷の望を断たざりしと

### 日本軍將兵諸君

諸君が孤軍奮闘よく困に堪へ草根木皮を食とし、しかも敢てゆづらざるもの実に増援の来着を心まち待つて居らるからであらう。アイタペ、ホーランチア、サンサポルへの敵が上陸、なほ全く一縷の望を断たざりしと

せば、九月十五日のハルマヘラ。十月廿日のフィリピン上陸は、全く之を断つたものであった。且つ情況の切迫に止むなく立つた貴国海軍も、フィリピン東方海面並びにレイテ湾方面会戦に於て扶桑、山城の二戦闘艦を始め空母四隻、甲級巡洋艦六隻、乙巡二隻、駆逐艦類隻を沈められるこの痛手を蒙り、之に對する聯合側損害は船団護衛用空母三隻、駆逐艦二隻、駆逐護衛艦一隻並びに快速艇數隻であつた。

の信念の下に出で、当方に集られた人々の数は今や相当なものである。皆心身の修養に又練磨にその日その日を静に送り以て他日の盡忠報国を期し以て臣子の本分を全して居られる」とある。



ジャングルの中、重火器を運ぶ兵隊(ニューギニア)

ニューギニア戦線で撒かれたものがピンに詰められ、ニュージラントに漂着したものである。ピラを少し解説すると、アイタペは東ニューギニア、オーランチア、サンサポルは西ニューギニアである。扶桑、山城は日本海軍の戦艦で昭和十九年十月二十三日(二十六日、フィリピン沖海戦でレイテ上陸阻止作戦が失



ババニューギニア(マダン) 慰霊と親善のために

墨書の文字も同じだが「無益な抵抗をやめ戦後日本につくす」と、前のビラに共通する部分もあるが、「巨大なる物量による暴風が洪水のような連合軍の進撃は抗するも無益」とある。撒かれたビラはたい

紙に使用したという。

第五九一回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メ切



宗像市

土穴

山本

静子

携帯の水を犬に飲ませて... 犬のために水筒を携帯し散歩する人を見た作者のちよつとした驚きが楽しい。三句切れにして「水筒の水を飼いだ犬に飲ませおり初めて会いし散歩の翁」としてみました。

うきは市 浮羽町

向

則正

朝五つ青く明るき西空に下弦の月のうすく残れり... 朝五つは午前八時ころ。明るい朝空の残月に心を惹かれる作者。四・五句はやや説明的なので工夫しましょう。例えば結句を「淡々と見ゆ」などと。

北九州市 八幡西区

豊田

光子

やすらぎは思ひもよらぬ左手は息子に引かれ遠花火見る... 親孝行な息子さんと花火をみる喜びをやすらぎと表す作者。おもしろい「やすらぎ」のなかな左手を息子にひかれ遠花火見る」とすると解りやすくなる。

福津市

星ヶ丘

佐々木

和彦

傾斜する側溝下る流れは草叢に入り水音たつる... 流れがどこから音をたて始めるのか、発見のある一首。調べを整え「傾斜する側溝」くだる水流は草叢に入り音たては「じむ」としました。

福津市

若木台

山崎

公俊

辺津宮をめぐる地形が「胸肩」と講座に聞きて地図ひらくかな... 講師から思いがけないことを聞いた作者。地図でたしかめた地形は胸肩の形になっていったのだろうか。作者の真面目さに「ユーモア」がある。

宗像市

日の里

石松

弘次

外灯を背にし歩く夜の道つかず離れず仲よく歩む... ご夫婦で夜のウォーキングをする作者か、へつかず離れずで二人の良い関係が表れているので「仲良く」は例えば肩並べなどと実景にしてもいいでしょう。

北九州市 八幡西区

吉田ウト子

「無窮華」とふ語源をもつ種ほがらかに一花を掲ぐ葉月... 韓国語のムグンファはじめ、は行音の多用でひびきのやさしい一首。初句、二句の字余りが気になるので「韓国名ムグンファ」無窮華の種」としてはどうか。ルビに括弧は不要です。

福津市

中央

池浦千鶴子

こほろぎも秋の暑さに病院の自動扉の開くをまつらし... 今年は残暑が厳しかったせいか、蟋蟀も冷房の効いた病院に入ろうと人が来るのを待っていたのだろうか。蟋蟀を擬人化した見方が楽しい。

宗像市

田久

巻 桔梗

浅沓の音近づけば神事待つ人つきつきにケータイを切る... いかにも現代らしい一首。聴覚を活かし、神官の登場を沓の音のみで表す試みが面白い。ケータイは携帯電話のカメラのシャッターの意と思われるが、工夫してみてもいい。

福岡市

南区

井田有久衣

退職時記にももらったオルゴールふたをあければやさしいメロデー... 作者の人柄がでてくるような気持ちのいいやさしい歌。初句の退職時は少し硬いので、「退職の記念」にしては。曲名などを入れるとさらに読者の共感を得るでしょう。

宗像市

日の里

大和美由紀

びつしよりの汗の野良着を脱ぎたれば身体も心も軽くなりたり... 汗でぬれた服を脱いだ爽快感がよく表れていて、「その通り！」と言いたくなる。次は「びつしよりの汗」のような常套句を使わない表現も試してみよう。

北九州市

戸畑区

田中ハツセ

夫と行きしシンガポールの旅に求む更紗の布が吾の夏ふとん... 空蟬は目を据え枝をはなさざり母の形見のゆかたはおらん

北九州市

八幡西区

遠藤 幸子

まつさらな蜘蛛の巣あさの陽にてりて秋のあたらしきひと日はじまる... 蜘蛛の巣にかかる蟻はなちやり自然に反すと夫にしかからる

選者詠

第五六六回

俳句作品集

宗像市

神湊

永島

紀子

盆踊身振り手振りの影引きて... 消防隊の行進訓練秋暑し

宗像市

日の里

花田

いつ枝

確かなる残暑の緩び今朝の風... 秋の七草六つまで言へて峠道

宗像市

武丸

白土

凌一

虫の声何やらゆかし夜は長し... 宗像市 平井 占部 詩子 夫寝ねて余白のこときわが夜長

編集後記

尖閣問題に

島や竹島を超えて、突如脚光を浴びた領土問題。しかし、日本国内の認識や、国際社会の常識というものの無力さを痛感された方も多々あります。先日、今から約二十年前に発生した「ユーゴスラビア紛争」のドキュメンタリー番組をシリーズでみました。第二次大戦後ヨーロッパ最悪の紛争でボスニアヘルツェゴビナ、サラエボ、セルビア人、ミロシエヴィッチ大統領、NATO軍などの言葉を記憶されている方も多々と思います。民族主義を掲げた、本能剥き出しの争いに戦慄を覚えました。彼の国も多民族国家、しかも大国。政権・体制への不満の矛先を反日にするだけでは、いつか暴発しそうで心配なのは小生だけでしょっか。(塚)

〒811-3505 福岡県宗像市田島 電話 0940-62-1311(代) 発行人 葦津幹之 編集人 大塚宗延 制作 セネラルアサヒ 印刷 セネラルアサヒ

宗像大社事務所 発行所 宗像

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円